

(様式3)

自己評価結果票 (西ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「尊厳のある生活」、「見守る介護」、「家庭的な環境」、「笑顔のあふれるホームに」の4項目を重要理念として提唱している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>開設以来、毎朝の朝礼で理念の唱和を行っている。又、会議でも職員の理念についての取り組み方や実践を報告して前向きに取り組んでいる。管理者は理念が職員の動きやケアの中に常に在るのが、見守っている。</p>	<p>管理者が一番望んでいることは、理念を共有し、全スタッフに浸透させることである。今後も折に触れ、メッセージを発信していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念は施設案内のパンフレットにも載せている。入居時やケアプランの説明時等、折に触れ、その人らしい生活ができるよう取り組んでいることを家族に伝えている。家族、民生委員、公民館に広報誌「くすの木DAYS」を配布している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎日の散歩、歩いていけるスーパーや美容院の利用、喫茶外出をすることで、挨拶や会話だけでなく果物等をいただいたりする機会が増えている。又、週一回、生ゴミ収集日の後片付けを行うなど、日常的な付き合いが出来ている。駐車場には掲示板を掲げ、ボランティアや行事の案内をしている</p>	<p>今後も行事やボランティア等取り組んでいきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>公民館のふれあい喫茶、自治会の秋祭りの見学、盆踊りへの参加、輪投げ大会への参加等、地域の方々と交流する機会を持っている。</p>	<p>近隣の幼稚園等と交流できる機会を作りたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	本年度は4名が、認知症サポーター キャラバンメイト養成講座を受講し、地域の人々に認知症の方に対する理解とサポートをして頂けるような働きかけをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の第三者評価後も反省点や今後の取り組み方等、意義を含めて会議で議論し、今後の指針として取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2、3ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの現状を報告し、話し合いを行っている。情報交換をしたり、第三者的な意見を頂くことが多い。又、会議へはその都度利用者の出席を促し、自己紹介、生い立ちなどを話して頂いている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口へは広報誌を持参したり、問い合わせをすることはあるが、頻繁な往来はない。地域包括センターの職員が運営推進会議に参加して頂けるようになり、連携は取りやすくなった。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年同様、現在も活用する必要はないが、研修で学んだ職員は会議で報告し、回覧等で理解するよう努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やメディア等で学び、その報告は随時行っている。又、スタッフの人員は常に十分確保され、ゆとりのある体制が整っているため、虐待はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>交流会は年数回実施しているが、今後とも定期的に実施し、意見の反映に努めたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置異動はほとんどないが、離職によりやむを得ず交代する場合がある。残ったスタッフはより深く利用者とかかわり、精神的な安定が得られるよう配慮している。		新しく入社したスタッフに対しては、現在のスタッフが、自分たちのチームで精一杯力を発揮してもらえる様、環境作りに努めている。
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、グループホーム連絡会の研修、疾病別研修会等に参加。スタッフの学びたいという意欲もある。折に触れて外部の勉強会の案内をしているが、計画的に研修に参加できているとはいえない。		毎月の全体会議において、外部で受けた研修を報告する機会を作ったり、事業所内部でも勉強会を設けたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所に実習に行かせてもらったり、グループホーム連絡会等で同業者と話をする機会はあるが、十分に交流できているとは言えない。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は常にスタッフの悩み、不満、意見等に耳を傾け、一緒に解決していこうとする姿勢を持ち続けている。スタッフの悩み、仕事への意気込みをレポート提出という形でくみ取っている。スタッフ自身も又、自己を見つめる機会にもなり、他力だけでなく自力でも立ち上げられることに繋がる。		今後も、レポートの提出を継続していきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	折に触れて、話し合いの場を持ち、問題点があれば改善の努力をしている。又、ケアプランに沿った介護ができていないのか、独りよがりではないのかと、常に気を配り、問題点をお互いに出し合い、討論する姿勢を持っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族から相談を受けた後に、必ず本人と面談する機会を設けている。本人が困っていること、不安に思っていること等、本人の気持ちを聞き取っている。本人の置かれている状況、身体面、精神面に考慮し、受け入れを検討している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の思いや不安等をしっかり聞き取り受け止めるよう努めている。本人とご家族との思いの違い等も受け止め、信頼関係が築けるよう努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたときに本人と家族の状況を把握し、今どんな支援が必要かという視点で、当グループホームでの生活が可能かの見極めをしている。利用不可の場合は他のサービス利用を紹介するなどの対応をしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、本人がグループホームの雰囲気に慣れて頂けるよう、またスタッフも顔見知りになれるように、家族同行で見学に来て頂いている。又、見学時に、他の入居者と一緒に昼食を食べていただいたりして馴染めるような工夫をすることもある。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常のレクリエーションの中でも利用者と共に考え進めていく工夫をしている。習字なども利用者に教わり一緒に仕上げていく喜び等を築いている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族には利用者の健康面精神面の状況をその都度報告し、把握して頂くよう努め、意向等も聞きながら、ケアプランの作成に努めている。一年に一回、家族、利用者、スタッフとのバス旅行を計画し、関わる時間を増やし、良い関係が築けるよう努めている。		
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	スタッフは家族との面談を定期的に設け、利用者、家族、スタッフとの良い関係が築けている。		今後も交流会を通して、利用者、家族、スタッフの関係を深めていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の親戚、兄弟の方に気軽に訪問して頂いたり、四季を通じて手紙を出されたり、頂いたり、関係が保てるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係をスタッフが把握している。孤立がないように声かけし、個々が助け合って洗濯物の片付けなども行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した利用者の面会に行き、医師、ケアワーカーとの連携を保ち、状態の把握に努めている。利用が終了しても家族との相談を受けられるよう、関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの思いや希望、意向を聞き対応している。困難である場合には、スタッフ全員で話し合い、検討し、本人の気持ち等を踏まえて取り組んでいる。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前に本人と家族から生活歴、サービス利用の経過を聞き取り、その人らしい生活ができるよう支援している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりのできることを発見し、現状を総合的に把握し、無理強いせず、個々に楽しく過ごして頂けるよう努めている。</p>	<p>現在センター方式を取り入れているので、入居者をよりよく知り、その人らしい生活ができるように取り組んでいきたい。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意見や意向を聞き、スタッフ間でアイデアを出し合い、話し合い、検討し、本人本位のケアプランを作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月1回のモニタリングを実施し、変化に応じて臨機応変に見直しし、利用者、家族、スタッフで話し合いを持ち、新たな計画を作っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等、個々のケース記録に記入し、その中でケアの気づきを見つけ、反省や介護計画の見直しを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単独のグループホームなので、その特性を活かし、きめ細やかで臨機応変な対応ができるように努めている。利用者の暮らしを馴染みのスタッフが継続的に支えている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域、近郊のボランティアの方との交流など気軽に声をかけて頂いたり、こちらから声をかけさせて頂いたり、日々交流が深まっている。又、元家族の申し入れにより、月1回の音楽療法を実施している。消防避難訓練時には消防署員に指導をして頂いている。		幼稚園児や小学生との交流が図れていない為、今後の課題として取り組みたい。市政出前講座の利用も検討したい。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーと話す機会はあるが、他のサービスを利用するには至っていない。利用者の自費負担を伴うので他のサービス利用を勧めてはいない。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員には運営推進会議のメンバーになって頂いて情報交換を行ったり、広報誌を配布しているが協働とまでは至らない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の協力病院からの往診を受けている方や、かかりつけの主治医を持っている方がいる。家族の協力を得て受診しており、その際には必要な情報提供書を作成している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援できていない。認知症専門機関への受診希望者が多いが、主治医（内科医）が特に詳しく認知症について見識を深めているとは思えず、今後の課題である。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が不在であるため、スタッフが健康状態の把握に努めている。健康状態に不安がある場合は家族や主治医との連携を取りながら健康管理に努めている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院治療となるまでの過程を医療機関へ情報提供している。又、本人の不安やストレスを軽減できるよう、できる限り面会に行き、病院側や家族との相談を行い、退院に向けての支援に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、早期より利用者、家族、病院側と話し合い、意向等の確認をするよう対応している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期までの対応はできていない。できる事、できない事の見極めは、各々のケースにつき検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、片付け等の個々に合わせた当番表を作り、手伝って頂いている。味付け、盛り付け等も一緒に準備をして頂き、会話等しながら楽しく参加して頂いている。		
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前に個々の嗜好調査を実施し、健康面にも配慮し、工夫している。好まない食材、その物に対して副作用がある場合等、前もって代替食を考えるよう配慮している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄状況を把握し、排泄パターンを掴み、トイレへの声かけ、見守りし、自立排泄ができるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者自身の意向を大切にし、無理強いしないよう支援している。個々のペースに合わせ、ゆったり、ゆっくりした入浴を実施している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせてつつ、日常生活リズムにメリハリをつけられる様な環境作りを行っている。		
んら				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々のできる力を最大限に活かし、自分らしく楽しく過ごせるよう、掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、料理等、役割を持って頂くよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、外出時等の支払ができる方には、家族と話し合い、個々にお金を所持して頂いている。その他の方に関しては、日常のお金は事務所にて保管している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、喫茶、散歩、外食等、利用者の希望に沿って外出ができるよう工夫している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望に沿えるよう支援している。ドライブ等も楽しみ、季節を味わって頂いている。家族との外出も本人の思いを大切に、意欲や自立が保てるよう支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話なども気軽に家族にできるよう支援している。手紙等利用者宛に届いている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問日や時間の制限はなく、気軽に来ていただいている。訪問時は、お茶を提供し、居室でゆっくり会話されたり、リビングで他の入居者と談話されたり、自由に心地よく過ごして頂けるよう配慮している。		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット間での施設はなく、自由に交流している。身体拘束をしないケアを実践している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉は、家族の希望と推進委員会の意見により施錠している。玄関に行かれている時は利用者の気持ちを配慮し、傾聴する姿勢を心掛けている。希望があれば散歩に付き添うことがある。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーと安全に配慮しながら、さりげなく見守っている。所在に関しても動きを把握するよう努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物はスタッフの目の届く範囲内に管理し、危険を防いでいる。利用者が(はさみ、針、包丁)を使用されている際はスタッフが見守りを徹底している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誰もが起こりうる事故と認識し、日中夜間を問わず目配りするよう努めている。事故の際にはヒヤリハット報告を提出し、今後についてのケアを検討するようスタッフ全員が徹底している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応のマニュアルはあるが、応急手当、初期対応の訓練が浸透していない。		急変時対応の訓練や勉強会を徹底していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練、年2回の設備点検、又その点検時にスタッフの通報訓練を行っている。マニュアル表も作成している。		避難訓練の回数を増やすと共に地域の人々の協力が得られるよう積極的に声かけをしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成しており、スタッフも意識を持ち、日常生活の中での予防を行っている。会議等でも勉強会を実施し、常に意識するよう努めている。インフルエンザの予防接種は入居者全員が受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の調理器具等の洗浄、消毒を毎日行っている。2日ごとに必要なだけの食材を購入し、献立を工夫し、新鮮で安全な食材を調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには植栽が施され、玄関先には常に多様な鉢を置き、気持ちが和むようにしている。駐車場のフェンスには掲示板を掛け、行事の案内や様子を報告し、ご近所の方にも親しみを持って頂けるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の書道野作品、ちぎり絵、季節毎の催し物、外出時の写真を飾り、音楽を取り入れたりと居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室では一人静かに過ごされたり、リビングではソファでくつろがれ、楽しく談笑されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具、使い慣れた物等、家族と相談しながら配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の時換気を行っている。温度調整は衣服及び利用者の状態にも配慮し、外気温と大きな差がないよう調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、廊下、トイレ、浴室、玄関等すべてに手すりを設置している。トイレは3箇所設置し、各居室から遠くない位置にある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状況に合わせ、声かけし、個々を理解することで混乱や失敗を防ぐよう努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関付近には小さな草花やプランターを置き、庭には季節の花を植え、一緒に世話することによって楽しみや活動の場になっている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目 (西ユニット)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

管理者でもあるオーナーが、ホームに常在しており、入居前の段階から、利用者・家族と関わりを持ち、常に家族とのコミュニケーションが取れている。利用者も困り事を気軽にオーナーに聞いてもらえるという安心感がある。小さい単位のグループホームならではの臨機応変なケアが繰り広げられている。

家族と交流の場を持ち、互いの悩みなど情報交換を行い、バス旅行等を実施している。入居者の入退居があり、帰宅の訴えや失見当識による混乱がある中、どう対応したらその人らしい生活が送れるかについて、スタッフ間や家族とも話し合いを重ね、入居者の気持ちに寄り添うケアを心がけている。そのケアについては手探り状態のところもあるが、センター方式を取り入れてより良いケアに繋がるよう取り組んでいる。

又、日常生活の様子を記録として、個人アルバム作りを継続し作っている。